

々の面でも若い充実した生活を始めていた。何を見ても、聞いても、すべてが血となり肉となる年頃だった。クラブでは大学の周辺の自然や生活をとりあげて調べようということがきまり、霞はその中で「霞ヶ浦」を分担した。幼い時から馴れ親しんだ霞ヶ浦だったが、あらためて調べるとなると難しかった。何を調べてもうまくいきそうだし、逆に茫漠としてつかみどころがないように思えた。それで手始めに新聞の切抜きをすることにした。この頃は霞ヶ浦のことが連日のように新聞をにぎわしていたので、結構忙しく、やり甲斐もあった。

夏休みに入って数日間、友達と海へ行っていたので新聞が溜っていた。それを二階の自分の部屋に持ちこんでさて切抜こうとしたら急に暑さが肌を感じられた。水着姿で焼いてきた肌がプールへ行こうとささやいているようだった。でも気を取り直してハサミを手にした。

○年○月○日。霞ヶ浦で全面水泳禁止。

「とうとう泳げなくなりました。でもプールがあるから良いわ。観光業者は損害でしようけれど。」と霞は思った。

○年○月○日。養殖ゴイ大量死。

高浜入を中心に四五〇トンものゴイが酸素欠乏で死んだ。漁民は二億円以上の損害を受ける。藻が異常発生。

「藻が原因だなんて恐ろしいこともあるもんだわ。それにしても漁師の人達は魚はとれない、養殖がダメでは本当に気の毒ね。」

○年○月○日。シンボ「霞ヶ浦はどうなる」開かる。

市民と科学者、労組が共同で浄化を訴えるシンポジウム。

「あち、こんな集会があったのね、行けばよかった。本当に霞ヶ浦はどうなるのかしら」。

○年○月○日。漁民、県に対策を迫る。

○年○月○日。北浦でも養殖ゴイ死ぬ。

○年○月○日。原因は逆水門か？

ゴイの死因が逆水門の閉鎖にあると主張する漁民と水質汚濁と干天であると主張する県が対立。補償交渉は難航。「難しいのね。原因も簡単にわからないなんて。」

○年○月○日。漁業消滅もありうると県言明、「ひどいことをいうのね。漁業が消滅する：：：それでも霞ヶ浦なのかしら」。

○年○月○日。霞ヶ浦全域で養殖不能か？

○年○月○日。ワカサギ依然として不漁。

○年○月○日。霞ヶ浦の魚は全滅寸前。

酸欠で自然の魚も腹を見せる。

○年○月○日。藻が農業用水の取水を阻む。

揚水機場のスクリーンに藻がこびりついて取水が困難